

しまくとぅば普及関係者各位

沖縄語教育研究 12
沖縄語の音の伸縮などと漢字の使い方 (3枚)
表記の原則と問題提起

2010年5月29日

沖縄語研究家 船津好明

沖縄語の漢字の使い方や仮名の振り方については、既に繰り返し示してきましたが、以下では、これまで示さなかった音の伸縮などの変化に対応した表記のあり方について述べます。沖縄語では、音の伸縮や変化がよくあります。言葉は地域(しま)人、場面によって変わります。前後につく言葉によっても変わることがあります。言葉が変わって意味が変わらない場合もあるし、変わる場合もあります。どの言葉も、言文一致式の書法では、仮名で書けば音を損なう心配はありませんが、漢字を使う場合は注意が必要です。以下は、問題提起を含めて、表記の方向性を示すものです。

1、音の伸縮や音便的な変化などがあっても意味が変わらない場合

意味が変わらないとは、通常考えられる意味の範囲を出ないことを指します。例えば「くるま」は、現代では自動車の意味ですが、昔は人力車の意味でした。物が変わっても言葉は同じです。人力車も自動車も、「くるま」の通常の意味の範囲と考えます。

言葉は地域(しま)人、場面によって、音が伸縮あるいは変化しても、意味が変わらないものがあります。その場合、漢字を使うときは同じ漢字を使います。

例1:「ふーじ」は、漢字では「風儀」が当たります。「ふーじ」は琉歌などの韻文では、韻律の都合で「ふじ」と短縮して発音されることがあります。この場合も同じ漢字の「風儀」を使います。また、「ふーじ」という人が、場面によって「ふーじー」と伸ばすことがあります。その場合も同じ漢字「風儀」を使います。整理すると、

ふーじ ふじ ふーじー ふーじ
風儀、 風儀、 風儀、 ×風儀ー。

振り仮名は漢字の至近位置に、音に従って振ります。「^{ふーじ}風儀ー」に×をつけた理由は、「×^き木ー、^{きー}木」と同じ考え方からです。

「ふーじ」の意味はかなり幅広ですから、言い手がその幅の中で意味や発音を変えて言ったとしても、同じ漢字を使います。言い換えれば、同じ人が「ふーじ」を風習の意味で言い、「ふーじー」を仕様の意味で言ったとしても、同じ漢字の「風儀」を使います。

沖縄語では、同じ意味の範囲で音の伸縮や音便などの変化によって発音が種々に変わっても、辞典では代表的な一つを載せるだけです。「ふーじ」は辞典にありますが、同じ意味の「ふじ」は辞典にありません。

例2：「按司」は場面によって「あじ」^{あじ}、「あんじ」^{あんじ}、「あじー」^{あじー}などと読み、振り仮名は「按司」^{あじ}、「按司」^{あんじ}、「按司」^{あじー}、×「按司ー」^{あじ}となります。

漢字を使わないときは、発音の通りに仮名書きすれば、問題は生じません。

例3：「まぶい」^{まぶい}、「まぶやー」^{まぶやー}。

2、音の伸縮などの変化で意味が変わる場合の表記上の問題

意味が変わるとは、通常考えられている意味の範囲を出て、別の意味の言葉と考えられる場合を指します。普通は、変わる前と後は別の言葉として、両方が辞典に載るのが普通です。例えば、「うらんだ」と「うらんだー」や、「ゆんたく」と「ゆんたくー」は、それぞれ別の意味であると考えられています。仮名で書くときは、発音の通りに書けば問題は起きませんが、漢字を使う場合が問題です。

例4：「くるま」^{くるま}は昔は人力車、今は自動車です。漢字ではどちらの意味でも「車」^{くるま}でよいでしょう。この例で、語尾を伸ばして「くるまー」とすると、人力車夫を意味することがあります。単なる音便的な伸びではなく、別の言葉になると考えられます。

(注)昔の人力車は、時代が変わって自動車になりましたので、「くるまー」という言葉は死語になってしまいましたが、近年、環境保全の観点から、観光地などで人力車が復活しています。人力車を引く人が「くるまー」です。「くるま」は車輪の意味もあり、意味が広がって人や物を道に沿って運搬する車輪のついた道具をも指します。

(問題提起)

以下について、各位もお考え頂ければ幸いです。

(1)人力車夫の意味の「くるまー」^{くるまー}を漢字で書くとすれば、どう書くのが適切でしょうか。^{くるま}車ー？、^{くるまー}車？、×人力車夫^{くるまー}

漢字に仮名を振れば音は損なわれませんが、なるべくなら、振り仮名がなくても一意的に理解できることが望ましいと思います。

人力車夫を「車ー」^{くるま}と書くと、口語の「車は」の意味に取られることがあります。言葉の前後関係から、意味がはっきりすることもあります。

「車」^{くるまー}と書くと、別の意味で「車」^{くるま}がありますから、「車」に「くるま」と「くるまー」の意味を同時に持たせることとなります。

「くるまー」を韻文に取り入れて音が短縮した場合、「くるま」が人力車夫を意味することになります。

伸ばしの部分を仮名書きして「くるまあ」とするのは、表記上の新しい定義になります。新しい定義は研究者にはよいですが、学習者には向きません。

(2) 沖縄語は音の伸縮や変化によって、言葉の意味が変わるか変わらないかの判断が難しい場合があります。例えば、「わらび」と「わらばー」は両方とも子供を指しますが、地域、人、場面によって、尊卑感が異なる場合があります。その場合、別の言葉と見なすかどうかです。

「わらび」の漢字は「童」が当たると思いますが、「わらばー」はどうなりますか。

わらば　　わらばー　　わらばー　　わらばー
童ー？、　童？、　　×子供、×餓鬼

このように「くるまー」も「わらばー」も、漢字で書くにはためらいがあります。

また、ある人が子供のことを「わらび」と言い、別の人が「わらばー」と、卑称ではなく単に子供の意味で言うとするれば、「^{わらばー}童」と書いてもよさそうです。「わらばー」は音と意味が日本語の「わらべ」に関連していると思います。同様に、「酒^{さきじょーぐ}上^{さきじょーぐー}戸」も「酒^{さきじょーぐ}上^{さきじょーぐー}戸」も共によさそうです。

(3) 沖縄語では、単語の語尾をそのまま、または変化させて伸ばし、者や物を表すことがあります。例えば、出来^{でいき}ゆん～出来^{でいき}やー、出来^{でいき}らん～出来^{でいき}らんぬー、やま^{でいき}とぅ～やま^{でいき}とぅー、しーく^{でいき}わーずん～しーく^{でいき}わーさー。

言葉によっては、漢字が使い易いこともありますが、使いにくいこともあります。

上記のような漢字の使い方は、筆者自身も釈然としないため、ここに問題提起する次第です。漢字を使うかどうかは、あくまで選択です。筆者は、判断に迷う場合は仮名で書くこととします。

照会先

〒1870002 東京都小平市花小金井 2-6-1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp